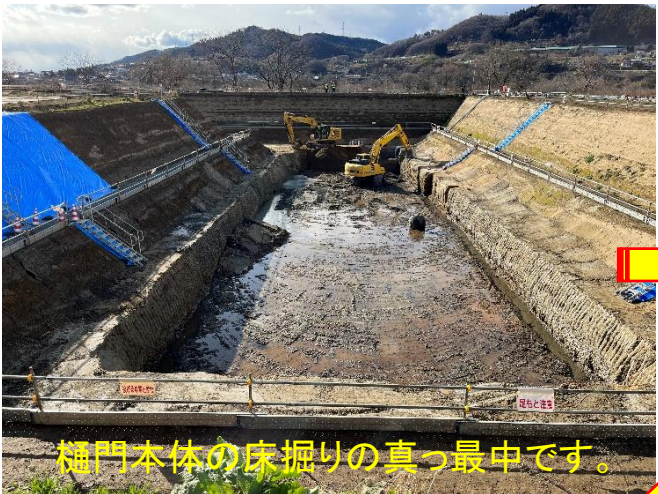


上今井遊水地 だより

大俣堤防上より12月20日撮影



現場は何もしていないように見えますが...



樋門本体の床掘りの真っ最中です。



床掘りした土砂を積みこみ。



土砂仮置場に運び、



埋戻し用の土砂を仮置きしています。

樋門本体の床掘りも終盤を迎えています。年が明け、躯体工事に移っていきますが、安全最優先にて進めてまいりますので、本年もご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

令和5年12月号で紹介した、新たに始まる上今井左岸築堤その1～その3工事、上今井遊水地圍繞堤工事では、現在、工事を行うための計画を作成しています。

謹賀新年

地域の皆様におかれましては旧年中並々ならぬご厚情を賜り心より感謝申し上げます。

上今井遊水地整備におきましては昨年より排水樋門の工事に着手し更には圍繞堤（いぎようてい）や左岸堤防の工事も契約し堤防、遊水地内の掘削と本年よりいよいよ遊水地整備を本格的に進めていくこととなります。

千曲川の治水、地域の安全に資するよう地域と一体になって整備を進めてまいりますので本年も河川事業にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

千曲川河川事務所
千曲川緊急治水対策出張所長
小野 伊佐緒

【江戸期以前の千曲川】

千曲川は、江戸期までは上今井橋の上流付近から現在の上今井遊水地計画地古川沿いを、半円形を描くようにして流れていました。

このため洪水の際は延徳沖などへ逆流し上流側への氾濫を起こしていました。

現在の形のような直流させる案は江戸時代からあったようですが、難工事であるということや、上今井村としては計画地の家や田が失われること、集落の移転を余儀なくされること、そして対岸における耕作が不便となるなどの問題が多く、開削は実現されませんでした。



上今井区 所蔵
明治3年6月 上今井村との交渉文書(抜粋)

【相次ぐトラブルと完工】

工事中には乱闘事件や増水により堤防が崩れるなどの障害もあり、盟約から離脱する村々も出て来ましたが、最終的に29ヶ村の協力により明治5年に工事が完成しました。

しかしその後も出費負担等のトラブルが生じ、完全に解決したのは明治16年のことでした。

関係町村は、丸山要左衛門の功績を称える碑を建てようとしたが、要左衛門は固辞し、千曲川の新旧分岐点に水神碑だけが建てられました(後に県知事等が上申し褒章が実現しました)。

【丸山要左衛門】

明治元年(1868年)5月大洪水の後、安源寺村(現中野市)の丸山要左衛門は、洪水の都度自ら船に乗って水流を確かめ、直流化によって上流への水害を防止できると確信しました。

そこで要左衛門は、周辺の村々や、中野陣屋役人に直流化の利点を説き、翌明治2年に沿岸68ヶ村を説得し民部省の許可を得ました。

更に翌明治3年6月には上今井村との交渉もまとめ、ようやく着工となりました。



【今井用水の開削】

今井用水は、長野市豊野町川谷地籍の鳥居川から取水し、旧豊田村の荒山地区までの農地に水を運ぶ総延長約17kmの農業用水路です。

江戸時代寛文年間(1660年頃)に造られたということですが、1845年に起きた上今井村の大火により多くの文書が失われ、開削当時の資料は残っていません。



【野田喜左衛門】

今井用水を造った野田喜左衛門は、1631年に今の兵庫県姫路市に生まれました。

28歳の時、飯山藩主に起用されて飯山藩に入り、川除普請奉行(川の整備をする役割)を命ぜられました。

以降、野田喜左衛門が約30年にわたり造った用水は飯山から豊野町まで12か所、総延長120km以上となり、そのうちの一つが今井用水です。

喜左衛門の墓は飯山市の本光寺にあり、毎年5月1日頃「野田祭」が行われています。また、三水村内に三本の用水を造ったことから「三水村」という名前にしたということであり、その功績は地名としても残っています。



野田喜左衛門の墓
(飯山市本光寺)

【今井用水の改修】

開削から300年以上が経過し老朽化が著しいため、昭和から平成にかけて、上今井区が行政と上3区に呼びかけ、今井用水の改修が計画されました。

平成4年に改修工事に着手しましたが、平成7年の豪雨による鳥居川の氾濫や、用水の途中にある「こだま山」の隧道が崩落するおそれがあったため、工事を機に位置を付け替えて万全なものにするなど、12年もの歳月をかけて現在の形に改修されました。



嘉児加川取水口

鳥居川への余水吐